

- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -

feature interview

DJ KOYA

1月に3周年を迎え、4年目に突入した火曜日のレギュラー“RED ZONE”を支え続けてきたDJ KOYAが、自身のこだわりや、現在のシーンについて率直な意見を述べてくれた。現場の第一線で活躍し続けるDJからの生の声、ここから何かを感じて下さい。

■RED ZONEが始まってから3年が経ちましたが、始めた頃と今とでの変化はありますか？

最初の頃は自分も未完成だし、今も完成されている訳ではないけど、色を付けなきゃいけないって思って、その中で色々トライしてきて今は悟った部分があって、自分のやりたい事だけを100%やるだけでは無理というか、お客さんの反応とかを一番考えないといけないし、その中で自分のやりたい事をいかに多く含ませてやるかっていうのは、今もこれからもずっと続けていくにあたって、常に追求していかなくてはならないだろうし、とりあえず最初よりは今の方がそういう事がわかるようになりましたね。でも年ごとにお客さんも変わるので、細かく毎年のように変えなきゃならなかったり、選曲が臆病になったりとか、そういう事はありますよね。今までずっと付いてきてても、そこでお客さんが変わると、またちょっと選曲とかも変わるので。若干ですけどね。そこは難しい所ですよ。

■DJ KOYAとして最近特に意識している事はありますか？

NYのスタイルを相変わらずに意識しながら今もやっているから、そこですね、見ているのは。それだけじゃないけど、それは自分のスタイルの一番ベース、核にしている部分ですよ。それを自分で消化して、どうやって表現して、ベストに持っていかってという事ですね。NYのやっているまじまじ無理でしょ。曲の幅も広いし、NYもどンドン難しくなっちゃってるから、NYスタイルをやるにしても、一番浅い部分を拾って、一番盛り上がりそうな部分を拾ってやるって事になっちゃいますよね。あんまり深く、一番オレがやりたいのはここって言うのをそのままやっても、シラっとしちゃうって言うのはありますよ。ただシラっとしてもやらなきゃいけない部分もありますよね。やらないとみんな一緒になっちゃうし。それこそ3年前よりDJも増えたり、流行る曲も多くなったので、その中でどうやって変えるか。やっぱり他の人とはちょっと違わないと嫌だから。流行る曲はオレには変えられないから、それはどうしても入れていかなきゃならないだろうけど、その前後の持って行き方はDJそれぞれ自由な訳だし、そこで自分の色が出せればと常に思っています。

■NYが基本というのは変わらない所だと思いますが、何故そこまでNYに対するこだわりがあるのですか？

やっぱり入りかな。一番最初にDJをやるう、やろうと思って始めた訳じゃないけど、カッコイイなって純粋に思って、色々HIP HOPとして感じる事があったから、やっぱりNYのスタイルを基本に置いてやるのは仕方ないかなって。それでずっとやってきたし、それで良いというヤツもいるし、どうしてもそこだけは捨てられないですよ。他の場所が一番最初に良いバイブスを感じたら、もしかして言うてる事も違ってたのかも知れないけど、最初の印象が良かったから、こんな所あるんだって。当時は日本と全然違ってたし、HIP HOPってストリートが凄く強いじゃないですか。凄くなって思って。色々影響受けたのはやっぱりNYですよ。結局NYでかかっているような物を日本でかかっている訳だから、参考って言うか自分のプラスにする為に行きたくらいに行ったりする事もあるし、これからもずっとそうだと思うし。

■NYと日本のタイムラグが今は無くなってきているように思えますが、

リリース物に関してはタイムラグは無くなってきてるよ。結局ここはNYではないから、あんまりNY過ぎる事をやるって言うだけでもしょうがないんだけど、古い物すら流行りが変わってると言うか、今のHIP HOPに応じて、例えばそのネタだったりする物を上手く使ったか、古くも変わるじゃないですか。そういうのを常に見ていきたいな。それは自分たちの参考になるから、自分のスタイルの中でそこから広がる物も沢山あるし、そうやるならこうやるよって言う、それを常に拾いに行っている感じですよ。そのままだと出来ない。ここはNYじゃないから。悪い部分は別に取り入れる必要はないから、良い部分だけ取り入れていきたいですね。

■2/10にDJ KOYAにとってアイドル的存在であるDJ STRETCH ARMSTRONGが来日しますが、彼に対する何か特別な思い入れはありますか？

DJとして見たスタンス的には何も言う事はないかな。全て吸収したいなって位。どういう人かはわからないけど、DJはホントに「アイツの脳味噌くれよ」ってたまに思う位(笑)。パーフェクトだと思えますよ。もちろんこれはオレ個人の意見だけ。アイツも失敗する事あるだろうし、「あ、今失敗した」とかそういう細かい所はあるけど、DJのスタンス的には凄くカッコイイと思うし、何も言う事はないです。たまにわからないレコードとか聞いても、アイツ教えてくれないし。またそこが良いし(笑)。一番聞きたいという事は多分言わないヤツなんだろうなって。

■これまでずっとHIP HOPを見てきたDJ KOYAとして、最近のシーンについて何か感じる事はありますか？

悪い感じには全然思っていない。HIP HOPを聴く人の絶対数が増えたとは思いますが、良くも悪くも。選曲的に言うと「悪くも」の方が大きいかな。特に突っ込んでいくと、DJだからもちろん突っ込んで音楽を聴くから、何か薄っぺらくなっているような気はしますよね。昔はオレがが一番薄っぺらいんじゃないかっていう時代もあって、MURO君みたいな人が居たり、KENSEI君が居た頃はもっと重い物があって、DJ一つにしても。音楽に対して、もっと重く捉えていた部分があったと思うんだけど、今はこれだけの人が聴くポップスみたいになっているから、DJするにしても、そのプレイ云々というよりも一つ一つ知ってる曲ばかり聴いて、そうじゃないと盛り上がりがないし、一曲単位で盛り上がる。この人こういう風にかけるんだってそういう所は多分殆ど聴いてないんじゃないかな。火曜日のお客さんは多少聴いている人もいますけど、でも日本全部とか全体的な事を言うと、そういう所に比重は置いてないんじゃないかな。あの人は盛り上げるとかそういう所でDJが評価されていそう、今、盛り上がりがないとダメみたい。でもオレはそうは思っていないし、DJについても教えてあげる部分もあっても良いと思う。あの曲なんだろうとか、そういう事を聞く人がどンドン減ってますよね。「オレこの曲知らない、ちょっと酒賣いに行くわ」とか。男も女もそういう感じで、女の子なんかはHIP HOPがメインなのに「もうREGGAEだけでいいのー」とか(笑)。わかるよ、何をかければ盛り上がるのか。でもそういう感覚で来るんだって別に別にHARLEMじゃなくてもいいって極論になっちゃいますよね。でもやっぱり自分の選曲を聴いてもらいたくてやっている訳だし、その違いを聴こうと思って聴いて欲しい、そういう所に耳を向けて欲しいって言うのはありますよね。

■情報が蔓延しているという状況も原因の一つでもありますよね。

それもありますね。昔は誰も知らなかったような情報を今は誰でも知ってるから。NYで何が流行っているのかも定かじゃない時代もあった訳じゃないですか。今はもうそんなレベルじゃないから、逆にそうなるかもしれないですね。知りすぎちゃって悪い方に出ている部分もあると思うけど、それをRED ZONEだけでどうこうなるって言う事でもないけど、選曲一つにしても軌道修正したいなって常に思っているんですけどね。でも悟ってしまっているから出来ないという悪循環になってますね。他のDJの人達も同じような事を考えているとは思いますが。新譜とかはみんな一緒、じゃあどうしようかなって言うのを模索していると思うし、今オレと同じような所にいるDJはそうじゃないかな。DJとしては今大変ですよ。自分なりに突っ込んでイケイケでこれ良いんだと精神を強く持っていくか、そういう事くらいしかありません。それをわからせるしかない。秘策があればホントに聞きたい位ですよ。やりすぎで引かれると「おいおいDJ KOYAジャンル変わったよ」とか、すぐじゃないですか。その辺が難しかったり、そういう風に言われるようになってくると、メインのHIP HOPですら耳を傾けなくなっちゃうので、バランスが難しいですよ。初めて来た人にもわかっ



てもらえる要素も入れなきゃいけないし、少しレベルの高いお客さん用も入れなきゃいけないっていうのが、それを融合させてバランスを取るっていうのが一番難しいんじゃないかと。ミーハーなのをかけた、高度なお客さんは「おいおい、またまた」って言うし、高度なのをかけたすぎると前の女の子なんかは「何コレ、わかんないわー」とか。反応もわかるし、例えば家でもこれは絶対盛り上がるかと、DJだからみんなわかっているんですよそれは。ただそれをやってしまうのか、自分の色はこうだからそこはちょっと控えておいて、その分も自分の方向性の物を外れた分入れるのかって言う、そのさじ加減っていうのは個人のDJによって違うんだろうけど、そこは難しい。オレはどっちかって言うとミーハーではなくて、オレの色っていうのを比較的多く入れていって思っている方のDJなので、なおさら首を絞めているなっていうのはありますね。ただその分良いって言うてくれたりするのは凄く嬉しかったりしますよね。冒険している所で反応があった時は凄く嬉しいですよ。盛り上がりがあるべき所で「K-OYA君凄く良かった」って言われるよりも、ここ落ちてたけどどうだったのって思うような所で「あそこ良かったよ」って言われると、それは何よりも嬉しいですよ。ヒットのラインから外れている所で言われた方が、ちゃんと聴いてくれているんだって思えますよね。そうするとまたやろうかなって思えるし、あまりにもそういう反応がないと、盛り上がりさせる事はみんなわかっているから、だんだんそっちに比重が寄っちゃうっていうのはあるかも知れないですよ。

ここ1、2年は同じ悩みを持っているし、どンドン同じ悩みを持つDJが増えてるんじゃないかなって思うし、そういう次元のかな今は、って思う。またどう風にかわらないうか、オレらのやれる事をやるしかないって感じですね。

■RED ZONEクルーの中で、その日のプレイについての反応などが返ってきたりする事はありますか？

うちはそういう所はクルーだから、言わないで次の日にレコード屋でストレスを発散してらるだろうね。何を買ったとか絶対言わないから。これは他のクルーには無い珍しい所で、こんなんでクルーと言えるのかという(笑)。でもそういう所嫌いじゃないから。そういう感じなので、悔しいと思っていれば思っている程言わないクルー、変わった軍団です(笑)。チラッと見て「ああ明日お前コレ買っていくか？もう無いけどね。」とかそういうのはありますね。ただそういう戦いをしている時点でまだ救われてると言うか、新しい今のヒットラインについてそういう事をやっている訳ではないから、深い部分の方で自分達のクルーは左右されているというか、悔しいと思うのはその部分だし。盛り上がりさせている所については何とも思わないですよ。もちろんKANGOにしても自分のクルーがやっている事は気にしてはいるだろうし、全

く気にならなくなったら終わりかなって。やっぱりこういう感じのかなとか思ったりするだろうし、常に刺激合っているとは思いますが。そこは凄く救いだし、今後もこのスタイルで行きます。悔しいから動いてあるじゃないですか。そこですよ。その表現の仕方は嫌いじゃないですよ、面白い。自分もそうだからああいうヤツらと友達なんだと思うし。凄いわかるも、ツボが、例えばみんなが探していたクラシックを発見してかけたりすると、三日後くらいに「あれ、そう言えば、KOYAの前かけてたと思うんだけど…」なんて、絶対確信してるでしょ、かけてたヤツでしょって(笑)。そういうの好きですね。そうやってみんな競争していると思うのでなかなか面白いですね。個人でもそうだし、クルーでもそうだし、何かあがって行く事も考えたりしないって退化していく一方ですもんね。長く続けているとマンネリするのが普通だから、自分達だけでもマンネリしないように、常に新しいやり方だっているのをお互いやっていけば、それがフロアの方にもそのバイブスが伝われば良いなと思うんですけどね。100%そうは行かないですけど、そんな努力は怠らないようにしたいですね。

■まだ来た事がない人達へのRED ZONEのスタイルを分かり易く説明するとどういう感じでしょうか？

うちは新しい物しかかけませんってパーティーじゃないから、HIP HOPという音楽が好きなのはとりあえず一回遊びに来て感じてもらいたい。見えない人はそれは仕方ないし、でも見える人も何人かは居る訳だし、そういうパーティーで良いかなって思っています。やっぱり一回来て貰わないと。平日だから週末に比べてハンディもあるけど、足を運んで貰って一回体感して下さいって事ですね。パーティーって音とかバイブスだけじゃないだろうから、全体的に楽しんでもらえれば、どンドン音を聴いてくれるようになるだろうし、とにかく来て貰わなければ言葉で説明しても分からないですよ。

■DJ KOYAとして今後やってみたい事や理想とするDJ像は？

パーティーとかは色々やりたいですね。簡単に言うとセレブ系とか。ちょっと想像が付きにくいようなパーティーはやりたいな。実際企画するとかじゃなくて、そういうのもあっていいかなって。DJとしては、昔はこういう風になりたかったって思ってたんですけど、DJとしてはこれで良いんですよ。ただ一つ一つの、例えばプレイだったり、制作のクオリティをあげる事とか、今やっている事を向上させたい。DJって音を作って、良いパーティーをやって大きくなるのがDJだと思ってるし、音にどンドン肥えて、それだけで僕は良いと思ってる、引退するまでそれでいいです。ただ今やっている事で納得が出来る事ってみんな無いと思うんですよ。常に上を目指している訳だから。制作も現場の事についても全部今よりもステップアップ出来るようにしたいですね。□